

平成26年度

岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書

(平成25年度事務事業対象)

平成27年3月

岩出市教育委員会

はじめに

岩出市教育委員会では、第2次岩出市長期総合計画に掲げたまちづくりの基本方針である「活力あふれるまち ふれあいのまち」の実現に向け、学校教育の充実並びに青少年健全育成、生涯学習・スポーツの推進及び文化・芸術の振興に努めてまいりました。

また、平成25年度の重点目標として、「生きる力と人間力の育成」を掲げ、その推進に当たっては、家庭や地域社会との連携協力を図りながら、取り組んできたところです。

本報告書は、本市教育委員会の課題や、今後の取組の方向性を明らかにし、教育行政の一層の推進を図るとともに、市民から信頼される教育行政を推進するため、平成25年度に実施した事務事業の点検評価をまとめたものです。

点検評価の結果を踏まえ、よりよい教育の実現を目指し、教育行政の充実に努めてまいります。

平成27年3月

岩出市教育委員会

目 次

I	岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価の報告について	
1	点検・評価の経緯	1
2	点検・評価方法について	1
3	教育委員会評価委員	1
4	教育委員会事業の概要	2
	【教育総務課】	
(1)	豊かな学力の育成と体力の向上	2
(2)	安全・安心な教育環境の整備・充実	3
(3)	地産地消の推進による安全・安心な学校給食の充実と 徴収率の向上	4
	【生涯学習課】	
(1)	青少年の健全育成	5
(2)	生涯学習の推進	5
(3)	文化・芸術の振興	6
	【岩出図書館】	
(1)	家族ふれあい読書推進事業	7
(2)	図書館利用促進事業	7
(3)	図書等購入事業	7
	【民俗資料館】	
(1)	民俗資料館の活性化	8
(2)	文化・学習基盤の確立	8
(3)	歴史・伝統文化の振興	8
II	各課の事業に対する点検評価の結果について	
1	点検評価結果	
	【教育総務課】	

(1) 学校教育の充実	10
(2) 子育て環境の充実	14
(3) 国際交流の推進	15

【生涯学習課】

(1) 青少年の健全育成	16
(2) 生涯学習の推進	17
(3) 文化・芸術の振興	19
(4) 人権尊重の推進	20

【岩出図書館】

(1) 家族ふれあい読書推進事業	21
(2) 図書館利用促進事業	22
(3) 図書等購入事業	23

【民俗資料館】

(1) 文化・芸術の振興	24
--------------	----

2 教育委員会事務事業評価一覧表

【教育総務課】

事務事業評価一覧表	27
-----------	----

【生涯学習課】

事務事業評価一覧表	30
-----------	----

【岩出図書館】

事務事業評価一覧表	33
-----------	----

【民俗資料館】

事務事業評価一覧表	34
-----------	----

Ⅲ 関連資料

○平成26年度教育委員会事務事業評価に関する意見書の提出について	35
○岩出市教育委員会評価等実施要綱	39

I 岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価の報告について

1 点検・評価の経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、PDCA のマネジメントサイクルを確立すべく、平成25年度における岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価について第2次岩出市長期総合計画に基づき実施した事業のうち、主な36事業について点検・評価を実施した。

2 点検・評価方法について

点検・評価の方法については、教育総務課、生涯学習課、岩出図書館、民俗資料館の2課2館で、各事業をその目的ごとに施策としてまとめ、施策単位で評価を実施した。

評価については、4段階（a期待以上、b期待どおり、cやや下回る、d期待以下）の基準を設けた。

評価の今後の方向性については、「廃止」、「見直し」、「完了」、「継続」の4つの基準を設けた。

点検・評価の報告書については、平成26年12月22日と平成27年1月23日、2回の教育委員会評価委員会を開催し、本市の教育に関し学識経験を有する方々に意見、助言をいただき、確認のうえ取りまとめた。

各事業については、平成25年度教育委員会事務事業評価一覧表のとおりである。

3 教育委員会評価委員

氏 名	職 名	
藤井 均	元岩出市立小学校長、社会教育委員	
富永 茂郎	岩出市青少年育成市民会議本部委員	
山田 恭央	岩出市公民館運営審議会委員長	

4 教育委員会事業の概要

岩出市教育委員会では、第2次岩出市長期総合計画の基本方針である「活力あふれるまち ふれあいのまち」の実現を目指し、「学校教育の充実」「青少年の健全育成」「生涯学習の推進」「文化・芸術の振興」「国際交流の推進」「人権尊重の推進」を主要施策として掲げ、教育総務課、生涯学習課、岩出図書館、民俗資料館の2課2館において各事務事業を実施した。

教育総務課においては、「(1)豊かな学力の育成と体力の向上」、「(2)安全・安心な教育環境の整備・充実」、「(3)地産地消の推進による安全・安心な学校給食の充実と徴収率の向上」の3つの項目を重点事業として実施した。

(1) 豊かな学力の育成と体力の向上

(ア) 学力・体力向上対策実践事業

「学力・体力向上対策実践事業」としては、「いわでアスリートクラブ事業」、「適応指導教室事業」、「確かな学力育成のための実践研究事業」、「外国青年招致事業」を実施した。

「いわでアスリートクラブ事業」では、陸上競技を通じて、児童の心身の健全育成が図られた。

登録者は、岩出市内の小学校3年生から6年生を対象に258名。

「適応指導教室事業」では、嘱託学校教育指導員2名を配置し、心理的要因等により学校生活に適應できず登校できない児童・生徒に対する教育相談や生活・学習支援を行うほか、指導員と担任教師が連携を深めることにより、在籍校への復帰を図っている。

入室者は、平成24年度は、中学生12名であったものが、平成25年度は、小学生3名、中学生5名となり、人数が減少したが、初めて小学生が入室した。

なお、中学3年生の入室者3名全員が普通高校へ進学している。

「確かな学力育成のための実践研究事業」では、上岩出小学校を算数研究の拠点校（研究指定2年目）として、中央小学校を特別支援教育の視点を生かした授業作り（研究指定1年目）として指定し、市内各小・中学校と連携しながら、子どもの確かな学力を育成している。

その結果、上岩出小学校では、算数における基礎・基本の定着を図るため

の徹底した反復練習や、家庭学習を充実させるための家庭向け啓発資料の作成などに取り組み、その成果が現れてきている。中央小学校では、特別支援教育の視点を生かした国語研究に取り組み、どの子も「めあて」と学習の「見通し」もった主体的な学習ができるように取り組んでいる。

他の小学校4校については、それぞれの特色を生かした自主研究を実施し、子どもの実態に応じた取組を推進し、学校間でその交流を行っている。

「外国青年招致事業」では、ますます英語教育が重要となる中で、英語担当教員と外国青年のALT（外国語指導助手）によるチームティーチングを実施し、ALTによる生の英語に触れることをとおして英語による「聴く・話す力」の育成や国際理解教育の充実に寄与した。

（イ）就学援助費補助事業

「就学援助費補助事業」においては、「特別支援教育就学奨励費扶助事業」、「要保護、準要保護児童・生徒扶助事業」を実施した。

「特別支援教育就学奨励費扶助事業」では、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学児童・生徒用品費、校外活動費、修学旅行費、学校給食費を支給し、就学に係る保護者の経済的な負担軽減を図った。

小学校では40名、中学校では12名に対し、特別支援教育就学奨励費扶助事業を実施した。

「要保護、準要保護児童・生徒扶助事業」では、経済的理由によって就学困難と認められる児童・生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学児童・生徒用品費、校外活動費、修学旅行費、学校給食費を支給し、就学に係る保護者の経済的な負担軽減を図った。

小学校では386名、中学校では295名に対し、要保護、準要保護児童・生徒扶助事業を実施した。

（2）安全・安心な教育環境の整備・充実

「教育環境の整備事業」としては、「小・中学校施設改修事業」による施設の充実と「通学路危険ブロック塀等改善事業」、「小・中学校教材教具等の整備事業」による教育環境の充実に寄与した。

「小・中学校施設改修事業」では、小・中学校の補修工事、環境整備工事及び通学路整備工事を実施した。

補修工事については、教室の床改修、トイレ改修、運動場改修、体育館吊物設備補修等を実施し、環境整備工事として特別教室や保健室等の空調設備工事、剪定防除等を実施した。

通学路整備工事については、岡田地区外通学路整備工事他6件の工事を実施するとともに、上岩出小学校通学路新設工事を実施した。

これらの事業を実施した結果、教育環境の整備や児童・生徒の安全確保が図れた。

「通学路危険ブロック塀等改善事業」は、岩出市広報や市のウェブサイトへの掲載、市政懇談会や区・自治会長会議でのチラシの配布により、周知に努めたが、利用は2件にとどまった。今後、さらなる利用促進を図るため住民への周知方法について再検討する必要がある。

「小・中学校教材教具等の整備事業」では、特に体力向上対策の一つとして、老朽化に伴う体育用マットの入れ替えを行ったほか、小中学校とも計画に基づいた教材備品の充実・更新を図った。

児童・生徒用図書を購入については、小学校では2,495冊を購入し、小学校の総蔵書数が80,636冊となった。また、中学校では1,979冊を購入し、中学校の総蔵書数が40,734冊となった。その結果、文部科学省の「学校図書館図書標準」による「標準冊数」を、根来小学校以外は充足している。(根来小学校は、蔵書数10,313冊、標準冊数10,760冊)

(3) 地産地消の推進による安全・安心な学校給食の充実と徴収率の向上

「学校給食運営事業」では、児童・生徒に栄養バランスのとれた安全で安心な給食を提供し、心身の健全な育成を図るとともに、地産地消を推進することにより、安全で新鮮な食材の活用を図った。

また、円滑な学校給食運営を推進するため、給食費の滞納者に対しては、学校との連携を一層強化した督促を行うとともに、和歌山簡易裁判所への支払督促申立による債権差押や、児童手当からの徴収、夏季・冬季徴収、電話催告、随時の臨戸徴収等を行い、徴収率の向上に努めている。

なお、消費税増税等の影響を考慮し安定的な学校給食の提供に資するため、学校給食運営委員会において、平成26年度から給食費を1食あたり20円値上げする答申が出されている。

次に、生涯学習課においては、「(1) 青少年の健全育成」、「(2) 生涯学習の推進」、「(3) 文化・芸術の振興」の3つの項目を重点事業として実施した。

(1) 青少年の健全育成

青少年の健全育成においては、次代を担う青少年が健全に育つために、家庭・学校・地域・行政が青少年の健全育成を目的に各種団体との連携を蜜にし、地域教育力の向上に努め、青少年育成活動を一層強化し、青少年が犯罪に巻き込まれないよう、青色防犯パトロールの巡回や通学路に設置している子ども見守りカメラの運用とともに、登下校時のあいさつ運動、見守り活動などを実施し、安全な環境づくりを目指し、犯罪抑止に寄与することができた。

「岩出市補導委員会」の活動の一環として、青少年を取り巻く環境浄化を図るため、駅前の無施錠の自転車にエフ付けやゲームセンターや大型店舗での非行未然防止活動を実施した。

「岩出駅周辺環境浄化パトロール」では、各種関係団体等の連携により、下校時の生徒に声かけ運動を実施した。

「青少年センター」においては、青少年非行の早期発見、早期指導、その他青少年の不良化防止活動を有効かつ適切に行い、学校・警察・各種団体と連携を密にし、青少年健全育成のため取り組んだ。

(2) 生涯学習の推進

生涯学習の推進においては、岩出市で暮らす全ての人々が生涯にわたって生きがいを持ち、誰もが故郷に愛着を持ち、生涯を通じて自由に楽しく学べる学習機会の提供と環境づくりを行った。

放課後子ども教室推進事業においては、市内6小学校75教室を開催し、延べ8,099名が参加した。

公民館文化教室では、15講座で、338名が受講し、知識や技術を身に付けるだけでなく、ともに学習する仲間として、人と人との結びつきを深めることができた。

成人講座では、10講座で、延べ792名が受講し、現在社会が抱える課題を教材として学習し、相互のふれあいと交流を深め、地域社会の発展に寄与することができた。

公民館においては、市民の高まる学習意欲やニーズに対応した生活に役立つ学習、文化的な学習、地域に貢献できる学習等の教室や講座を実施した。

事業としては、

(ア) 市民の方を対象とした文化教室として、書道教室、英会話教室、韓国語教室等を開催。

- (イ) 成人講座として、行政講座や歴史講座等を開催。
- (ウ) パソコン教室の開催。
- (エ) 子どもを対象とした夏・冬の子ども講座として、お菓子教室等を開催。
- (オ) 高齢者を対象としたふれあい学級として、歴史講座や健康教室等を開催。

平成 25 年度の全国子守唄サミット&フェスティバルは、岩出市で開催し、子守唄の保存・継承に努めている全国の加盟団体（7団体）と交流を深め、子守唄を末永く後世に引き継ぎ、普及するという共通理念のもと、それぞれの地域の発展と、文化・福祉の向上に努めることを確認した。

スポーツ事業として、市民運動会では9, 913名の参加があり、市民のスポーツ振興と、レクリエーションの普及や健康増進を図り、市民相互のふれあいと交流を深める機会を提供することができた。

岩出マラソン大会では、2, 703名の参加があり、県外、市外から多くの参加者に対して岩出市を広くPRすることができ、また、参加者間の交流により互いに触れ合うことができ、有意義な大会であった。

また、競技力の向上と育成、活動の活性化を図るため、スポーツ少年団や体育協会等への補助や、全国大会等に出場する選手に補助することで、生涯スポーツの振興と青少年の健全育成等に寄与することができた。

全国大会は11件、近畿大会は6件、県大会は14件で、合計31件の補助を行った。

(3) 文化・芸術の振興

文化・芸術の振興においては、多種多様な芸術・文化に触れる機会の提供、また、伝統的文化の継承を促進し、文化・芸術の振興を図った。

文化祭事業では、25, 965名の参加があり、市民の文化活動の成果を発表する場を設け、文化活動の振興と普及を図れた。

公民館フェア事業では、コンサートに14団体、223名、ギャラリーに17団体、242名の参加があり、人々の出会い・ふれあいの場を提供できた。

次に、岩出図書館においては、「(1) 家族ふれあい読書推進事業」、「(2) 図書館利用促進事業」、「(3) 図書等購入事業」の3つの項目を重点事業として実施した。

(1) 家族ふれあい読書推進事業

家族ふれあい読書推進事業は、子どもたちの生涯にわたる「生きる力」の基礎的な部分を育む豊かな読書環境づくりの継続的な推進を図るため、前年度に策定した第2次岩出市子ども読書活動推進計画（平成25年度～平成29年度）に、新たに加わった。

家族が子どもと一緒に読書する時間をつくり、「うちどく（家での読書）」することを推進するため、おすすめの図書のリストや家族の読書の記録を書きとめる欄を掲載した「うちどくノート」の配布や、図書館に おすすめ本を展示する「うちどくコーナー」を設置し、市内の各小中学校と連携しながら家庭力の向上と子どもの読書活動の活性化を図った。

(2) 図書館利用促進事業

市民に図書館に対する理解と関心を深めてもらうとともに、さまざまな情報提供や啓発を行うため、各種のイベント事業、講演会、DVD上映会等を開催することにより、利用促進を図った。

平成25年度の入館者数は、岩出図書館及び分館・分室合せて202,621名、蔵書数は、252,273冊、貸出冊数は、343,947冊、登録者数は、26,416名であった。

(3) 図書等購入事業

より多くの市民に利用してもらえよう、市民のニーズ、社会的な動向、公共図書館の役割を考え、一般図書 8,534 冊、児童図書 3,403 冊、参考図書 214 冊、DVD101 枚、CD101 枚を購入した。

今後も、地域密着型図書館として、市民の身近にあって、「いつでも、どこでも、誰でも」図書館サービスが受けられるよう努める。

次に、民俗資料館においては、「(1) 民俗資料館の活性化」、「(2) 文化・学習基盤の確立」、「(3) 歴史・伝統文化の振興」の3つの項目を重点事業として実施した。

(1) 民俗資料館の活性化

「民俗資料館資料収集事業」では、資料館の活性化を図るため、常設展観事業で使用される根来漆器を購入する(平成25~27年度の3ヶ年計画)とともに企画展等で使用する民具等の収集を行った。

(2) 文化・学習基盤の確立

(ア) 民俗資料館展観事業

本年度から新たな取組として実施した「所蔵品展」では、3,107名、「収集資料品展」では16,870名の入館者があり展観事業の充実が図られた。

また、「秋季企画展」では6,295名、「根来塗講座作品展示」では8,237名、「文化協会作品展示」では7団体述べ6,877名の入館者があり、次代を担う小・中学生や若い世代の方にも郷土の歴史の情報や学習の場を提供することができた。

(イ) 民俗資料館歴史学習・講座事業

「歴史講座」は2回開催し、合計で174名の参加があり、市民に様々な角度から郷土の歴史や成り立ちについて学びふれあう機会を提供することができた。

また、本年度から新たに取り組んだ資料館職員による「夏休み子ども歴史学習会」を2回開催し、合計で64名の参加があった。しかし、「子ども歴史・自然学習会」は屋外実施で、悪天候の影響もあり参加者が17名と少なかったことから、今後は参加対象を市民全般に広げた学習会として実施し、参加者の確保に努める。

(3) 歴史・伝統文化の振興

「国史跡根来寺境内保存管理事業」については、史跡指定を受けた根来寺境内の今後の適正な保存管理並びに行政的施策の基本計画を作成することを目的に平成23~平成25年度までの3ヶ年事業として実施した。

本年度は、策定委員との意見調整を行いながら、適宜策定委員会と小委員会を開催し、その策定計画を取りまとめ、保存管理計画書を刊行した。

今後、保存管理計画書にまとめられた、史跡根来寺境内およびその周辺域の適正な保存管理についての基本方針を活用し、史跡の保存管理を適正に行っていくことが必要である。

Ⅱ 各課の事業に対する点検評価の結果について

1 点検評価結果

【教育総務課】

(1) 学校教育の充実

〔基本方針〕

生涯にわたる人間形成の観点から生涯学習の基礎を培い、豊かな心と多様な社会環境に適応できる能力を持った児童・生徒の育成に向けて、教育施設や教育内容の充実を図る。

また、「生きる力」を育むため、個人の尊厳と個性の尊重という基本的な考えに立ち、一人一人の能力と個性に応じた教育実践に努め、家庭や地域との連携による指導の充実などを行う。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- いわでアスリートクラブ事業では、陸上競技を通じて、児童の心身の健全育成に努めた。
実施回数：36回 登録者数：258名。
実施場所：中央小学校又は大宮緑地総合運動公園。
- 適応指導教室事業では、学校や関係機関と連携を図り、児童・生徒の在籍校への復帰に努めた。
入室生徒数：小学生3名、中学生5名。
延べ日数：小学生25日、中学生220日。
来所相談者：20名 電話相談件数：17件 訪問件数：45件。
- 小・中学校の補修工事については、優先順位により計画どおり事業を実施し、児童・生徒の安全確保に努めた。
- 倒壊による事故を未然に防止するため、通学路危険ブロック塀等改善事業補助を計画していたが、利用件数が少なかった。
- 教材・教具等の整備については、小・中学校とも、計画に基づき進めることができた。図書整備については、根来小学校の蔵書数が平成26年度で図書標準を満たすよう、早急に対応する。
- 登下校時の危険防止のため、児童携帯用防犯ブザー購入費を補助し防犯ブザーの携帯を奨励したが、申請率は伸び悩んでいる。
171名分を補助 申請率32%。

- 授業における実践研究を行うことにより、教職員の資質向上を図り、児童・生徒の確かな学力の育成に努めた。
上岩出小学校（2年目）算数科の基礎基本の徹底。
中央小学校（1年目）特別支援教育の視点を生かした授業作り（国語）
他の4校は、それぞれの特色を生かした自主研究を実施。
- 紀の国緑育推進事業については、自然と触れ合う機会が減少している子どもたちに、森林体験等を通して貴重な体験をさせることができた。
参加児童数：625名 場所：日高川町 日高川ふれあいドーム。
- 特別支援教育就学奨励費扶助事業を実施することにより、保護者の負担軽減に努めた。
小学校：40名 中学校：12名。
- 要保護、準要保護児童・生徒扶助事業を実施することにより、保護者の負担軽減に努めた。
小学校：386名 中学校：295名。
- 事業所の協力により、職場体験を実施することができた。
岩出中学校 2年生 283名 87事業所。
岩出第二中学校 2年生 306名 78事業所。
- 授業の一環として中学校の防災訓練を実施した。また、防災の啓発・指導・実践活動ができるジュニアリーダーの育成を行った。
防災訓練
岩出中学校3年生 274名 岩出第二中学校3年生 289名。
防災ジュニアリーダー 51名参加。
岩出市地域防災訓練 22名参加。
- 私立幼稚園の就園奨励費補助事業を実施することにより、保護者の負担軽減を図った。
11園に私立幼稚園就園奨励費補助金を交付
- 学校給食については、児童・生徒に栄養バランスの取れた安全で安心な給食の提供に努めたが、地産地消率が大きく前年度を下回った。給食費の徴収率はわずかに向上した。
地産地消の推進 旬の野菜26品目使用 地産地消率59.5%。
徴収率（現年度）99.02%。

〔総合評価〕

- ◎ 学校教育の充実については、14事業の評価を実施し、総合評価は「期待以上」が1事業、「期待どおり」が10事業、「期待以下」が3事業と評価し、今後の方向性は14事業全てを「継続」とした。

- いわでアスリートクラブ事業については、登録者も多く成果があがっているが、指導者の確保が課題となっている。
- 適応指導教室事業については、依然、入室困難な児童・生徒がいるため、学校、家庭及びスクールカウンセラーや他機関との連携強化をさらに図っていく必要がある。
- 小・中学校施設改修事業については、補修工事、環境整備工事の実施により、教育環境の整備や安全確保が図られたが、通学路の危険箇所については、さらに安全確保に取り組んでいく必要がある。
- 通学路危険ブロック塀等改善事業については、児童・生徒の安全確保を図るため必要な事業であり、地域住民への周知方法の改善に努めていく必要がある。
- 確かな学力育成のための実践研究事業については、子どもの意欲や態度に改善の兆しがみられるが、数値的な成果による検証が必要である。
- 学校給食運営事業については、安全・安心な学校給食の提供に資するため、献立の工夫や食材の仕入れ先の検討などにより地産地消率の向上を図る必要がある。給食費の滞納者に対し、支払督促申立てによる債権差押や、学校との連携による個別徴収をより一層強化するとともに、コンビニ収納や児童手当からの徴収等、徴収方法の工夫により、さらなる徴収率の向上に努める必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

- いわでアスリートクラブ事業については、大勢の児童が登録し競技会でも好成績をあげるようになってきているため、今後も継続してもらいたい。指導者については、ボランティアを公募してはどうか。
- 適応指導教室事業については、初めて小学生が入室できたことは前進である。しかし、適応指導教室に入室している児童生徒は、不登校児童生徒の一部に過ぎないため、関係機関と連携した不登校対策の強化を望む。
- 小中学校施設改修事業については、児童生徒の安全確保や教育環境整備にとって重要な事業であるため、今後も計画的に事業を推進されたい。
- 通学路危険ブロック塀等改善事業については、児童生徒の通学時の安全確保の観点から重要な事業であるが、利用件数が伸び悩んでいる。本事業の対象と思われる塀等の所有者に対する積極的な働きかけについて検討してもらいたい。
- 確かな学力育成のための実践研究事業については、教員の資質向上を図り児童の学力向上を図るために重要な事業である。成果の検証方法については、児童や保護者にアンケート調査を行うことも考えられる。

- 学校給食運営事業については、保護者の公平性の観点からも徴収率の向上に努めてもらいたい。地産地消率が下降しているが、天候等の事情により地元で調達できない食材がある場合はやむを得ないのではないか。しかし、安全で新鮮な食材を使用するうえで地産地消の推進は重要であるため、今後も努力してもらいたい。

(2) 子育て環境の充実

〔基本方針〕

地域子育て環境の充実については、児童の健全育成を図るため、家庭と地域社会が一体となった良好な社会環境づくりに努める。

学童保育については、保育時間や指導員の体制作りに一層努める。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- 共働き世帯を対象に、放課後における子どもの居場所づくりのための事業として、シルバー人材センターに委託し、放課後児童健全育成事業（学童保育）を実施した。

市内6ヶ所（7教室）で実施

小学校1年生から3年生対象

〔総合評価〕

- ◎ 子育て環境の充実については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」で、今後の方向性は「継続」とした。
- 放課後児童健全育成事業については、児童や保護者のニーズに対応できるようにするため、指導員の資質向上を図る必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

- 待機児童がなく全員受け入れられていることは、保護者にとって大変ありがたいことである。特に岩出市は核家族化が進むとともに、共働きの家庭やひとり親家庭が多いため、今後とも本事業の充実が必要である。

(3) 国際交流の推進

〔基本方針〕

情報提供サービス等の充実に努め、民間による国際交流・地域ぐるみの国際交流を推進するほか、住民ボランティアの育成を図るなど、住民参加型の国際交流を展開する。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- 外国青年を英語指導助手として招致し、中学校で英語教育を実施した。岩出中学校、岩出第二中学校に2週間ごとに英語授業の助手として勤務。

〔総合評価〕

- ◎ 国際交流の推進については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」、今後の方向性は「継続」とした。
- 外国青年招致事業については、英語教育や国際理解教育の充実に大きな役割を果たすことから、今後も継続した実施が必要である。

〔外部評価委員の意見〕

- 外国青年招致事業については、英語教育の充実に寄与するものであるため、引き続き必要な事業である。
「国際交流の推進」と掲げているため、本事業以外に新しい事業の創設を検討してもらいたい。

(1) **青少年の健全育成**

〔基本方針〕

青少年健全育成に関わる各団体の活動の充実と連携の強化に努め、家庭・学校・地域及び行政がそれぞれの果たす役割を明確にし、青少年を取り巻く様々な問題について取り組み、子どもの育つ環境を守るとともに、地域社会を形成している大人に対しても、青少年の健全育成に対する重要性や意識の向上に努める。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- 青少年が心豊かに成長することを願い、青少年の健全育成の一環として、「青少年育成市民会議」を始め、各組織の強化・充実を図った。
- 「あいさつ運動」、「清掃運動」、「子ども安全パトロール隊」などの活動を通じて、青少年の取り巻く環境の安全確保を図った。
- 青少年センターでは、青少年の健全育成及び非行防止として、広報活動、不良行為の早期発見、早期指導、補導活動、少年相談、立ち直り支援などに努めた。

〔総合評価〕

- ◎ 青少年の健全育成については、2事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」で、今後の方向性は「継続」とした。
- 今後も、学校・警察・青少年センター及び家庭・地域関係団体等が行政と一体となって、青少年が健やかに育つ環境づくりに努める必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

- 青少年健全育成事業において、様々な取組を行っており、そのことについて評価はできるが、他府県で子どもを巻き込んだ痛ましい事件が発生しており、子どもたちを一人でも多くの大人の目で見守ることが犯罪の抑止力に繋がることから、今後も地区育成会の立ち上げを推進し、組織の強化を図ってほしい。

(2) 生涯学習の推進

〔基本方針〕

市民一人ひとり生きがいを持って、人生を送ることのできる活力あるまちづくりを進めるため、学習者の主体性を尊重し、「いつでも、どこでも、誰でも学べる」、「共に生き、共に学ぶ」ことができる環境づくりに努める。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- 放課後子ども教室推進事業については、子どもたちの安全・安心な居場所づくりのため、小学校の空き教室等を利用して、地域の方々の参画を得て、学習活動・文化活動を通して、地域住民との交流活動に取り組んだ。

6小学校で75教室、参加児童延べ人数は8,099名の参加

- 公民館事業については、市民一人ひとりが生涯学習の各過程において、適切に学習できる「場」と「機会」を提供し、あらゆる世代に親しまれる公民館活動を実施した。

文化教室は、15講座、受講者数は338名の参加。

成人講座は、10講座、受講者数は延べ792名の参加。

ふれあい学級は、11講座、受講者数は延べ1,694名の参加。

パソコン教室は、4教室、受講者数は79名の参加。

家庭教育学級は、10か所（保育所（園）、幼稚園）受講者数は865名の参加。

- 全国子守唄サミット&フェスティバル事業については、子守唄の保存・継承に努めている全国の加盟団体（7団体）と交流を深め、子守唄を末永く後世に引き継ぎ、普及するという共通理念のもと開催した。

参加者数は、680名（岩出市で開催）

- 負担金・補助金事業については、市民の健全な体育及びレクリエーションの振興、スポーツを通じての青少年健全育成のため、補助金を交付した。

- 市民運動会事業については、市民のスポーツ振興とレクリエーションの普及・浸透を図り、よりよい人間関係を育むと共に、明朗・活発な人間育成のため実施した。

参加者数は、9,913名

- 岩出マラソン大会実行委員会助成事業については、参加者に健康と体力

づくりのため、生涯スポーツの普及と振興を推進するとともに、マラソン大会を開催することにより、岩出市を県内外に広くPRすることを目的に開催した。

参加者数は、2,703名

- スポーツ教室事業については、市民のスポーツ振興を図り、健康で明るいまちづくりを推進することを目的に実施した。

親子教室は、122組244名の参加。

ヨガ教室は、44名の参加。

エアロビクスは、51名の参加。

- 大会等派遣事業については、スポーツ活動の振興とスポーツ活動団体の育成を図るため、各種スポーツ大会の出場に要する経費の一部を補助した。

全国大会は11件、近畿大会は6件、県大会は14件の計31件。

〔総合評価〕

- ◎ 生涯学習の推進については、8事業の評価を実施し、総合評価は「期待以上」が1事業、「期待どおり」が7事業で、今後の方向性は「継続」が8事業とした。
- 生涯学習の推進について、各教室、講座、イベント等については、必ず検証を行い改善点を洗い出し事業展開を図っていく必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

- 放課後子ども教室推進事業について、青少年健全育成にも繋がる事業であり、地域の連帯意識が薄まるなか、地域住民との交流も図られており、今後も子ども達が興味のもてる教室の展開を図られたい。
- 公民館事業において、文化教室や成人講座など様々な事業を行っているが、市民ニーズを反映した事業の展開を図られたい。
- スポーツイベントとして開催している市民運動会・岩出マラソンについて、市民運動会は健康増進と市民相互のふれあいと交流を深める絶好の機会であり、誰もが楽しく参加できるよう競技種目の検討を図られたい。
また、岩出マラソンについては、全国各地から参加いただいております。岩出市を内外にPRする絶好のイベントであり、今後もより多くの方に参加いただけるよう取組をされたい。

(3) 文化・芸術の振興

〔基本方針〕

創造性のある文化の薫り高いまちづくりに向けて、郷土文化の保存継承並びにふるさと教育の更なる充実を図り、多種多様な芸術・文化に触れる機会を充実させるとともに、文化団体の育成など地域文化活動の支援に努める。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- 文化祭事業については、市民の文化活動の成果を発表する機会を設け、文化活動の振興と普及を図り、参加を通じて文化への理解を深め、心がふれあう活力あふれるまちづくりを目的に開催した。

参加人数は25,965名。

- 公民館フェア事業については、文化教室及び公民館利用サークルの日頃の成果発表の場を設け、人々の出会い、ふれあいの機会をつくり、公民館活動・文化活動に対する理解と関心を深めることを目的に開催した。

コンサート 14団体で223名の参加。

ギャラリー 17団体で242名の参加。

チャリティー 2団体で 31名の参加。

〔総合評価〕

- ◎ 芸術・文化の振興については、2事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が2事業で、今後の方向性は「継続」とした。
- 文化祭について、企画・運営・内容について協議し、一人でも多くの市民の方が参加していただけるよう努める。

〔外部評価委員の意見〕

- 文化祭事業について、文化協会が中心となり充実した内容で開催されているが、より多くの市民の方に興味をもっていただけるよう、柔軟な発想で創意工夫をされたい。

(4) 人権尊重の推進

〔基本方針〕

重要課題である同和問題はもとより、女性、子ども、高齢者、障害者などあらゆる人権問題の解決に向け、住民に対する人権意識の高揚に努める。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- 人権啓発活動地方委託事業については、人権尊重思想の普及・高揚を図り、市民に人権問題に対する正しい認識を広めるため開催した。

〔総合評価〕

- ◎ 人権尊重の推進については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が1事業で、今後の方向性は「継続」とした。
- 人権講演会で群読という講師による聞く講演を実施し、今後も、一人でも多くの方に参加頂けるよう、創意工夫をこらした内容とし、人権問題に関する正しい認識を得ることに努める。

〔外部評価委員の意見〕

- 今までの人権講演会と違い「群読」という新たな視点から事業に取り組んだことは評価できる。
今後も、市民に人権問題に対する正しい意識を広めるために、一人でも多くの方に参加いただけるよう様々な観点からの人権尊重の推進を図りたい。

(1) 家族ふれあい読書推進事業

〔基本方針〕

家族が子どもと一緒に読書する時間をつくり、家での読書（うちどく）を推進するとともに、読書に親しみやすい環境を整え、学校と連携しながら、家庭力の向上と子どもの読書活動の活性化を促進する。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- 「うちどくノート」の各小中学校への配布及び説明を行い、図書館にはおすすめ本を展示する「うちどくコーナー」を常設とした。

また、うちどくノートに掲載しているうちどくにおすすめの図書から問題を出題する「うちどくクイズ」を実施し、「うちどく」の啓発を行った。

〔総合評価〕

- ◎ 家族ふれあい読書推進事業については、1事業の評価を実施し、総合評価は「やや下回る」で、今後の方向性は「継続」とした。
- 「うちどくノート」の利活用度については、学校・学年によって差があるため、家庭学習の1つとして「うちどくノート」を利活用してもらえよう、家庭に対する啓発はもちろんのこと、学校に対する啓発及び支援を行う必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

- 岩出図書館と学校との連携を強め、さらに「うちどくノート」が利活用されるよう、家庭や学校への働きかけを行ってほしい。

(2) 図書館利用促進事業

〔基本方針〕

図書紹介、行事案内やサービス内容など様々な情報を発信したり、おはなし会、イベント事業、講演会を開催することにより、市民の図書館に対する理解や関心を深め、図書館利用の促進を図る。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- 他の部署と共催するなど多角的な広報を行いながら、各種のイベント事業、講演会、DVD上映会、展示等を行い、市民の読書活動・生涯学習の向上とともに、図書館のPRができた。年々減少していた入館者数、貸出点数が増加した。

入館者数は、202,621名

貸出点数は、343,947冊

貸出人数は、111,698名

登録者数は、26,416名

〔総合評価〕

- ◎ 図書館利用促進事業については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」で、今後の方向性は「継続」とした。
- 今後も、市民の関心の高い、目新しい内容のイベントの実施に努め、マスメディアやメール配信等を利用して図書館サービスのPRを図る。

〔外部評価委員の意見〕

- 前年度に比べ、入館者数、貸出点数が増加したことは評価できるが、この先も増加するよう、新規利用者の開拓を図ってほしい。

(3) 図書等購入事業

〔基本方針〕

岩出図書館資料収集基準に基づき、公共図書館の役割、利用者各層の要求及び社会的な動向を十分配慮して、広く市民の文化、教養、調査、研究、趣味、娯楽等に資するため、図書等を幅広く収集する。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- 市民の多様なニーズに対応できるよう様々なジャンルの資料を取揃え、本館と分館・分室のネットワーク化により、「いつでも、どこでも、誰にでも」図書館サービスが受けられるように、地域密着型図書館運営に努めた。

図書

一般図書	8,534 冊
児童図書	3,403 冊
参考図書	214 冊
計	12,151 冊

視聴覚資料

DVD	101 枚
CD	101 枚
計	202 枚

〔総合評価〕

- ◎ 図書購入事業については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」で、今後の方向性は「継続」とした。
- 今後も、利用者のニーズの把握に努め、資料収集を行うとともに、各館に特色を持たせた蔵書構成を図る。

〔外部評価委員の意見〕

- もっと岩出市や和歌山県の郷土資料を充実させてもらいたい。

(1) **文化・芸術の振興**

〔基本方針〕

文化財等や文化的資源の保護・活用を図り、伝統的行事や民俗芸能の伝承を促進し、文化・芸術の振興に努める。

〔平成25年度の主な取組状況〕

- 民俗資料館資料収集事業については、資料収集事業計画に基づき、根来漆器の文化的資源としての保護と郷土資料として民具等の収集を目的に行った。
 - 根来漆器購入点数 9点
 - 民具等収集点数 15点
- 民俗資料館展観事業については、市民に郷土の歴史・文化に関心と理解を深めていただくことを目的に開催した。
 - 所蔵品展の入館者数は、3,107名
 - 収集資料品展の入館者数は、16,870名
 - 秋季企画展の入館者数は、6,295名
 - 根来塗講座作品展示の入館者数は、8,237名
 - 7団体が参加した文化協会作品展示の入館者数は、述べ7,812名
- 民俗資料館歴史学習・講座事業については、講演会や歴史講座とあわせて、新たな取組として歴史学習会を実施し、市民に様々な角度から郷土の歴史や成り立ちについて学び触れ合う機会を提供した。
 - 第1回歴史講座の参加者数は、61名
 - 第2回歴史講座の参加者数は、113名
 - 第1回夏休み子ども歴史学習会の参加者数は、35名
 - 第2回夏休み子ども歴史学習会の参加者数は、29名
 - 子ども歴史・自然学習会の参加者数は、17名
 - 秋季企画展講演会の参加者数は、50名
 - 秋季企画展ミュージアムトークの参加者数は、35名
- 国史跡根来寺境内保存管理事業については、平成23～平成24年度の2

ヶ年事業であったが、文化庁から、期間延長の指導があり、県教育委員会や策定委員会委員長と協議の結果、根来寺周辺の景観調査や環境調査等の精査を行うため、1年間延長して平成25年度までの3ヶ年事業として実施した。

〔総合評価〕

- ◎ 芸術・文化の振興については、4事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が3事業、「やや下回る」が1事業、今後の方向性は「継続」が3事業、「完了」が1事業とした。
- 民俗資料館展観事業については、新たな取組として、収蔵品展や収集資料品展を開催し展観事業の充実を図った。また、秋季企画展は、本市で開催された全国子守唄サミット&フェスティバルにちなみ「子守唄と岩出」をテーマとして実施し、多くの参加者があった。今後も、多くの方々に参加していただくため、関係機関等への働きかけのほか、市広報紙やウェブサイトを活用等、啓発活動に努める。
- 民俗資料館歴史学習・講座事業については、歴史学習や秋季企画展講演会に加えて本年度から資料館職員による「夏休み子ども歴史学習会」を開催し、参加を確保できたが、「子ども歴史・自然学習会」は屋外実施で悪天候の影響もあり参加者が大変少なかった。今後は、市民全般を対象とした学習会として実施し、参加者の人員確保できるよう努める。
- 国史跡根来寺境内保存管理事業については、策定委員との意見調整を行いながら、策定委員会を3回、策定小委員会を1回開催し、保存管理計画の策定および保存管理報告書の作成が完了した。今後は、策定計画のもとに史跡の保存管理を適切に行うため、関係機関と連携を図っていく必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

- 希少な根来塗等の収集を計画的に進めるとともに、市のウェブサイト等を活用して、根来塗を市内外にさらにPRしていくなど特色ある民俗資料館づくりに取り組んでもらいたい。

- 展観事業については、他の資料館等の優れた展示を研究するなど情報収集に努めてもらいたい。また、学校教育や生涯学習関連の展示や講演会等にも取り組んでもらいたい。

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	学校教育の充実	いわてアスリートクラブ事業	陸上競技を通じて、児童の心身の健全育成を図る。	毎週土曜日の午前中に、中央小学校又は大宮緑地総合運動公園を使用して、岩出市内の小学生(3年生以上)を対象に、陸上競技活動を実施する。	b	継続	継続して参加している児童は、確実に陸上の競技力が身につく、心身ともに向上が見られ成果が上がっている。全国大会出場者1名。 指導者は、ボランティア頼りになっていること、小学校の教員が多いため、学校行事等と重なり指導者が不足する時があることなどの理由から、確実な指導体制の確保と指導者の負担軽減のために、より多くの指導者を確保する必要がある。
2	"	適応指導教室事業	心理的要因等により学校生活に適応できず登校できない児童及び生徒の在籍校への復帰を目的とする。	不登校児童・生徒に対し、在籍校への復帰や自立を図るための指導及び援助、不登校児童・生徒に対する教育相談、学校等関係機関との連携を行う。	a	継続	昨年と比べ入級者が減少しているが、電話及び来所相談件数が増加している。入室者の中でも、ほぼ毎日出席できる生徒と全く出席できない生徒があるため、出席できない生徒への働きかけが必要と考える。また昨年度に引き続き、フレンドへの入室が困難な生徒に対して、在籍校と連携を図り家庭訪問等連絡を密にし、本教室の活用を促進するとともに、通級しやすい環境づくりが喫緊の課題であるとする。中学3年生の入室者3名全員が高等学校へ進学している。
3	"	小・中学校施設改修事業	施設の補修及び通学路の整備工事等により安心して学習できる環境整備や児童の安全確保を図る。	小・中学校の補修工事、及び通学路整備工事とそれに伴う設計監理業務委託ほか各種業務委託を実施する。	b	継続	各小・中学校の補修(普通教室床改修工事等)、屋外環境事業として、岩出第二中学校にテニスコートを設置し児童・生徒が、安全で安心して授業や屋外の活動を受ける環境の確保が図れた。 通学路の危険箇所については、教育委員会、学校、道路管理者及び警察と協議し、改善に努める。
4	"	通学路危険ブロック塀等改善事業	通学路に面したブロック塀等の倒壊による事故を未然に防止し、児童・生徒をはじめとする通行人の安全を確保する。	ブロック塀等の撤去、軽量塀等設置を補助する。ブロック塀等撤去件数2件、軽量塀等設置件数0件。	c	継続	児童・生徒の安全確保を図るため必要な事業であり、今後も地域住民に補助制度について周知に努める。
5	"	小・中学校教材教具等の整備事業	教材・教具を整備し、児童・生徒の学習意欲の向上及び教師の指導の効率化を図る。 児童・生徒図書を充実させ、読書環境の整備・強化を図る。	教材・教具購入については、学校からの購入希望を元に、緊急性・必要性を精査し計画を立て、整備を進める。 学校の図書購入希望リストに基づき、整備を進める。学校図書標準冊数を蔵書数の整備目標とする。	b	継続	小・中学校とも教材・教具の充実・更新を図ることができ、児童・生徒の学習意欲向上及び教師の指導効率化に寄与した。特に平成25年度は、体育用マットの老朽化に伴い、全学校に必要な枚数を整備した。(小 672,000円、中 556,500円) 図書は、小学校において、岩出小353冊、山崎小492冊、山崎北小581冊、根来小339冊、上岩出小346冊、中央小384冊の計2,495冊を購入した。また、中学校において、岩出中910冊、岩出第二中1,069冊の計1,979冊を購入した。 今後、図書標準冊数に満たない根来小学校の図書を充実させる必要がある。
6	"	児童携帯用防犯ブザー補助事業	防犯ブザー購入費の一部を補助することにより、携帯率を高め、児童を犯罪から保護し、危険を防止する。	各校PTAが防犯ブザーを購入する費用に対して、その1/2を補助する。ただし、児童1人につき1回限りとし、限度額400円。	c	継続	登下校における犯罪等防止に効果を挙げているが、児童の好みに合った商品を独自に購入する家庭も多数あり、申請率は低い。 児童の安全を守るための事業であるため、今後も携帯率向上に努める。

7	''	確かな学力育成のための実践研究事業	授業における実践研究を行うことにより、教員の資質向上を図り、児童の確かな学力を育成する。	上岩出小学校を算数研究の拠点校として、中央小学校を特別支援教育の視点を生かした授業づくり研究の拠点校として、市内各小中学校と連携しながら、子どもの確かな学力を育成している。他の小学校4校については、それぞれの特色を生かした自主研究を実施。	b	継続	各学校とも教員が意欲的に研究を推進し、その結果、子どもの意欲や態度に改善が見られる。成果の指標が曖昧であるため、成果の検証方法を工夫・検討する。
8	''	紀の国緑育推進事業	子どもたちが森林の働きや林業について学び、実際に間伐作業や木材加工を体験することにより、森林を守り育てる意識を醸成し、森林学習を深める。	森林体験学習前に、森林の働きや林業について参考資料を用いた事前学習を行い、その後、森林に入り、実際に間伐作業や木材加工を体験する森林体験学習を行う。最後に、事後学習としてこれまでの学習を振り返り、森林の大切さや森林の保全について学習する。	b	継続	自然と触れ合う機会が減少している現代の子どもたちにとって、本事業は貴重な体験ができる事業であり、森林や林業について学ぶだけでなく、環境への興味・関心を高める役割を果たしている。事後学習では、森林体験を振り返り、まとめ学習や作文、間伐材を用いた木工を行うことで、学習効果を高めることができた。今後も、体験学習をより生かせるよう、事前・事後学習の充実に努める。
9	''	特別支援教育就学奨励費扶助事業（小・中学校）	特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費を国の基準により支給し、特別支援教育の振興を図る。	学校給食費、修学旅行費、校外活動費、学用品費、新入学児童・生徒用品費、通学用品費に対する奨励費である。支給については、年3回(7月、12月、3月)支給する。	b	継続	特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者の経済的な負担が軽減され、特別支援教育の振興を図ることができた。本事業の果たす役割は大きく、今後も事業の継続が必要である。
10	''	要保護・準要保護児童・生徒扶助事業（小・中学校）	経済的理由によって就学が困難と認められる児童・生徒に対し、就学の援助を行い、義務教育の円滑な実施を図る。	学校給食費、修学旅行費、校外活動費、学用品費、新入学児童・生徒用品費、通学用品費に対する奨励費である。支給については、年3回(7月、12月、3月)支給する。	b	継続	要保護・準要保護児童・生徒の保護者の経済的な負担が軽減され、義務教育の円滑な実施を図ることができた。経済的理由により就学困難な家庭にとって、本事業の果たす役割は大きく、事業の継続が必要である。
11	''	和歌山を元気にする職場体験事業	職場体験事業を実施することにより、生徒に望ましい勤労観及び職業観を身に付けさせる。	各中学校において、事業所の協力を得て、中学2年生を対象に3日間の職場体験を実施する。	b	継続	中学生が職業について考え、自分の進路を考える絶好の機会となった。今後も必要な事業であるため、さらなる受け入れ事業所の開拓が必要である。また、今後も、紀の川市の教育委員会及び中学校と連携し、情報交換を行っていく必要がある。
12	''	中学校防災訓練及び防災ジュニアリーダー育成事業	中学生の危機意識を高めるとともに、災害時の地域防災活動において中心的な役割を担うことを意識づけるために防災訓練を実施する。	防災訓練は、各中学校を会場に3年生全員を対象として実施する。防災ジュニアリーダー育成事業は、夏休みの2日間、那賀消防組合消防本部及び中消防署を会場に、中学生の希望者を募り実施する。本事業の受講者は、岩出市地域防災訓練にも参加する。	b	継続	授業の一環としての防災訓練を実施することができた。生徒は概ね真面目な態度で参加することができた。今後も、こうした訓練を一層充実させ、中学生の防災意識の高揚を図り、防災の啓発・指導・実践活動ができるジュニアリーダーの育成に努める。

13	"	私立幼稚園就園奨励費補助事業	家庭の所得状況に応じ、保護者の経済的負担の軽減及び保護者負担の格差是正を図る。	私立幼稚園に在園する本市に住所を有する満3歳児、3歳児、4歳児及び5歳児の岩出市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱に該当した保護者に対し、設置者が保育料を減免する場合に、当該設置者に対し、補助を行う。	b	継続	本事業の実施により、保護者負担の格差是正を図ることができた。保護者の経済的な負担を軽減するための私立幼稚園に対する補助事業であるため、今後も継続実施に努める。
14	"	学校給食運営事業	児童・生徒に栄養バランスの取れた安全な給食を提供し、心身の健全な育成を図るとともに、円滑な学校給食運営を推進するため、給食費の完全徴収に取り組む。	地産地消の推進を図り、献立の工夫改善に取り組む。 給食費については、学校と連携を図るとともに、支払督促申立による債権差押により徴収率の向上に取り組む。	c	継続	学校給食は、栄養バランスの取れた献立となっている。地産地消率59.5% 現年度給食費徴収率99.02% 今後も、地産地消の推進と安全・安心な給食の提供を図るとともに、支払督促申立による債権差押や学校との連携を一層強化し、児童手当からの徴収を行い、新たな滞納者を増やさないよう現年度の完全徴収に努める。
15	青少年の健全育成	放課後児童健全育成事業	放課後又は夏休み等の長期休暇中に家庭において、保育することが困難と認められる小学校に就学している児童を対象に、適切な遊び及び生活の場を提供する。	小学校1年生～3年生までの児童で、家庭での保育が困難と認められる者に対して、放課後の児童の健全育成を図る。 社団法人シルバー人材センターに委託し、市内6ヶ所(7教室)で実施している。 実施時間は、学校開業日は、午後1時から午後7時まで、それ以外の日は、午前8時から午後7時まで開設。休日は日曜日、8月13日～16日、12月28日～1月5日。	b	継続	共働き家庭等の児童の放課後において、安全で安心した時間を過ごす支援ができ、効果は大きかった。 運営にあたっては、学童保育中の問題点や、学校での児童の様子などを教育委員会・学校と共有し、問題解決ができたことから、より円滑に運営することができた。 シルバー人材センターから派遣される指導員の資質向上を図っていく必要がある。
16	国際交流の推進	外国青年招致事業	中学校の英語の授業において、外国青年の補助により英語を多用した授業を実践することにより、外国語教育の充実及び推進を図る	外国青年を英語指導助手として招致し、中学校で英語教育の授業を実施する。	b	継続	英語教員と英語指導助手とのチームティーチングを実施することにより、中学校の英語教育が充実した。また、英語指導助手と生徒とのコミュニケーションが、英語の授業以外でも積極的に行われ、国際理解教育の充実にも寄与した。 今後、さらに英語教育の重要性が増してくることから、引き続き本事業の継続が必要である。

平成25年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価期間:平成25年4月1日～平成26年3月31日)

生涯学習課

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	青少年の健全育成	青少年健全育成事業	家庭・学校・地域と行政が連携し、安全な環境づくりを目指し、次代を担う青少年の健全な育成を図る。	あいさつ運動を全市的な取り組みとして推進、小学校を中心とした子どもを守るネットワークの構築。見守り活動の補完としての防犯カメラモニタリング、自主防犯パトロールに対して青色回転灯の貸出及び啓発活動の充実を図り、校区别懇談会にて青少年の抱える懸案事項の協議及び決定した活動の実施。	b	継続	その時々課題に対応した活動を実施しており、各事業における参加者も多く、効果があった。今後も地区育成会の立ち上げを推進するとともに、地区育成会の活動の活性化を図っていく。また、あいさつ運動や見守り活動の充実に努める。
2	〃	青少年センター運営事業	青少年の非行、被害防止、及び岩出市内の青少年を取り巻く環境浄化を目的に、補導活動、相談活動、広報活動を実施する。	非行の早期発見、早期指導、その他青少年の非行防止活動を行い、関係機関との連携を図る。	b	継続	補導委員や各種団体の協力のもと、街頭補導・街頭啓発等の実施により、非行防止への成果が十分にあった。今後は、警察等関係機関との連携の強化を図るとともに、街頭補導の充実のため補導回数について見直していく。
3	生涯学習の推進	放課後子ども教室推進事業	放課後に地域の方々の参画を得て、スポーツ・文化活動・地域住民との交流活動等を推進する。	安全・安心な子どもの居場所を設け、地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動を推進する。	b	継続	住民の方々の協力を得て、各種の教室を開催し、多数の小学生が参加した。今後も、協力者の確保に努めるとともに、学校との連絡を密にし、進めていく。
4	〃	公民館事業	市民の高まる学習意欲に対応した公民館運営に努め、公民館の充実を図る。	市民一人ひとりが適切に学習できる”場”と”機会”の拡大を図り、あらゆる世代に親しまれる公民館活動を展開している。	b	継続	市主催の各種教室や文化協会の活動など住民ニーズに対応した運営に努めている。今後も、住民ニーズに対応した場と機会の確保に努める。
5	〃	全国子守唄サミット&フェスティバル事業	「子守唄」を後世に引き継ぎ、地域文化の発展に寄与する。	加盟自治体6市1村が一堂に会し、全国子守唄サミット&フェスティバルを開催。平成25年度岩出市開催。	b	継続	継承者の育成が課題となっているが、今後も各地で開催される全国子守唄サミット&フェスティバルに参加し、情報収集・発信に努める。

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
6	〃	負担金・補助金事業	競技力の向上と育成、活動の活性化を図るため、スポーツ少年団・体育協会への補助金や県への負担金	市体育協会、市スポーツ少年団、市スポーツ少年団指導者協議会に補助。那賀地方スポーツ少年団指導者協議会、和歌山県体育施設協会に負担を行っている。	b	継続	各種補助金は、青少年の健全育成や生涯スポーツの振興などに成果をあげるよう努める。
7	〃	市民運動会事業	市民へのスポーツ振興と、レクリエーションの普及・浸透を図り、よりよい人間関係をはぐくむとともに明朗・活発な人間育成に資する事を目的とする。	10月14日の体育の日に運動会種目(23種目)並びにスポーツアトラクション(6か所)を実施。	b	継続	参加者数9,913名と、多くの市民が参加して健康増進を図り、市民相互のふれあいと交流を深める絶好の機会を提供するよう努める。。
8	〃	岩出マラソン大会実行委員会助成事業	市民及び参加者に、健康と体力づくりをするための生涯スポーツの普及と振興を推進するとともに、マラソン大会を開催することにより、岩出市を広く周知することを目的とする。	一般15キロの部(予定人数600名)、一般5キロの部(予定人数400名)、小学生3キロの部(予定人数600名)、ファミリー2キロの部(予定人数900名)会場並びにコース:根来若もの広場(広域農道スタート～若もの広場ゴール)平成26年3月9日(日)開催	a	継続	県外からの参加者も多く、参加申込が計画以上の人数(3,166名)であり、岩出市を広くPRすることができた。また、参加者間の交流により、互いにふれあうことが出来、有意義な大会となった。 今後も、会場並びにコースの安全確保と、スムーズな大会運営に努める。
9	生涯学習の推進	スポーツ教室事業	市民のスポーツ振興を図り、健康で明るいまちづくりを推進する。	親子体操教室・ヨガ教室・エアロビクス教室を実施。	b	継続	毎年、内容に工夫し楽しく参加できるよう取り組み、市民の健康維持増進に貢献した。 親子体操教室は、3歳児同士や親たちの交流につながり、楽しく運動することができた。 今後も、市民のニーズにあった教室の開催を目指す。
10	〃	大会等選手派遣補助事業	スポーツ活動の振興とスポーツ活動団体の育成を図るため、各種スポーツ大会の出場に必要な経費の一部を補助する。	市スポーツ少年団及び市体育協会に属する者が大会に出場する場合の経費の一部を補助する。	b	継続	本年度は全国大会11件、近畿大会6件、県大会14件 計31件の派遣補助を行い、今後もスポーツの振興を図ることに努める。

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
11	文化・芸術の振興	文化祭事業	市民文化の一層の発展と充実を図るため、文化活動の成果を発表する機会を設け、文化活動の振興と普及を図るとともに参加を通じて薰り高い文化への理解を深め、心がふれあう活力あふれるまちづくりを推進する。	日時:平成25年11月3日(日)～4日(月・祝) 場所:市民総合体育館ほか 内容:(テーマ 未来につなごう 輝く文化) ○作品展示 ○芸能発表 ○各種イベントコーナー	b	継続	入場者が25,965名と前年度に比べ、2,782名の増となり、市民相互のふれあいと交流が図られた。今後も、多くの作品の出演がいただけるよう、文化協会等に協力を求めるとともに、広報を工夫し周知に努める。
12	〃	公民館フェアー事業	文化教室及び公民館利用サークルによる日頃の成果発表を通じて、人々の出会い、ふれあいの機会をつくり、市民が公民館活動・文化活動に対する理解と関心を深めることを目的とする。	日時:平成26年3月1日(土)～2日(日) 場所:市民総合福祉センター 内容:(「岩出市民ふれあいまつり」と同時開催) ○公民館コンサート ○公民館ギャラリー ○公民館チャリティー	b	継続	来場者が2,080名と前年度に比べ、161名の増となり、成果発表の場及び市民のふれあいの機会をつくることができた。保健推進課と連携を図り、周知に努める。
13	人権尊重の推進	人権啓発事業	人権尊重思想の普及高揚を図り、また、未来を担う子どもたちが心豊かで思いやりのある子どもに育つことを願い市民の人権意識を高める。	人権問題に対する正しい認識を広めるための人権講演会の開催や小・中学生の人権作文集を作成し、市民の人権意識の向上を図る。	b	継続	小・中学生の人権作文集の発行や人権ポスター展の開催、市内各小学校において保護者学級を開設し、引き続き、人権教育・啓発に努める。

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	生涯学習の推進	家族ふれあい読書推進事業	家族が子どもと一緒に読書する時間をつくり、「うちどく(家での読書)」することを推進するとともに、家庭力の向上と子どもの読書活動の活性化を図る。	うちどくにおすすめの図書のリストや家族の読書の記録を書きとめる欄を掲載した「うちどくノート」の配布や図書館におすすめ本を展示するうちどくコーナーの設置を行う。	c	継続	「うちどくノート」の各小中学校への配布及び説明を行い、図書館にはおすすり本を展示する「うちどくコーナー」を常設している。また、うちどくノートに掲載しているうちどくにおすすり本の図書から問題を出題する「うちどくクイズ」を実施し、うちどくの啓発を行った。家庭に対する「うちどく」の啓発だけではなく利活用が広まらないため、学校に対して家庭学習の1つに取り入れてもらえるよう協力依頼をしているところだが、「うちどく」への取組みについては、学校・学年によって差がある。今後は、岩出図書館から小学校に派遣している学校司書の活動や、取り組んでいる「うちどくノート」を二次的に活用したイベント等の開催を通じて、さらなる啓発を行う。
2	生涯学習の推進	図書館利用促進事業	市民が身近にあって、いつでも、どこでも、だれにでも図書館サービスが受けられるように、岩出図書館と分館・分室のネットワークにより、地域密着型の図書館運営を図る。	さまざまなジャンルの蔵書を充実するとともに、分館・分室との情報ネットワーク化の充実を図る。また、DVD上映会、おはなし会、各種体験教室、講演会等の開催を実施し、図書館の利用を促進する。	b	継続	岩出図書館全体の入館者数・貸出点数・貸出人数・登録者数ともに昨年度より増加している。また、イベント開催についても、イベント数も例年に比べ多くなったが、内容についても、市民の関心の高い目新しいイベントを開催できた。しかし、館・室ごとに見ると、駅前ライブラリー・中央公民館・上岩出地区公民館の入館者数が減少しているため、それぞれの立地を勘案し、蔵書構成に特色を持たせ、利用促進を図りたい。また、イベントによっては、内容がマンネリ化しているものもあるため、内容を見直し、全てのイベントを読書活動の推進に繋げられるよう工夫が必要である。
3	生涯学習の推進	図書等購入事業	図書館の役割は、学習や交流の場として生涯学習の推進に大きな役割を果たす地域情報の拠点であり、様々な情報や活用資料などの提供をするとともに、利用者の要望に応じて市立図書館として図書館運営を図る。	一般図書・児童図書及び視聴覚資料(DVD・CD)等、図書館資料の収集を行う。	b	継続	一般図書8,534冊、児童図書3,403冊、参考図書214冊、視聴覚資料DVD101枚、CD101枚を購入し、図書資料の充実を図った。郷土資料を充実させるとともに、分館・分室に特色を持たせた蔵書構成を図る。

平成25年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価期間:平成25年4月1日～平成26年3月31日)

民俗資料館
総合評価

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	文化・芸術の振興	民俗資料館資料収集事業	民俗資料館資料収集事業計画に基づき、根来漆器の文化的資源としての保護と郷土資料として民具等の収集を目的とする。	常設展観事業で使用使用する根来漆器を平成25～平成27年度の3カ年計画で購入するとともに企画展等で使用する民具等の収集を行う。	c	継続	根来塗は、予定どおり購入することができた。しかし民具等については、市広報紙等で募集を行ったが提供者は非常に少なかった。今後は、方向性やテーマを定めて随時募集を行い郷土資料の収集に努める。
2	〃	民俗資料館展観事業	市民に郷土の歴史・文化に関心と理解を深めていただくことを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> ○所蔵品展「資料館で発見！～民俗資料館所蔵品展～」会期4月28日～6月3日 ○収集資料品展「集まった根来漆器」会期10月30日～3月31日 ○秋季企画展「子守唄と岩出～根来の子守唄に唄われたふるさとの様子～」会期10月30日～11月24日 ○根来塗講座作品展示 会期3月21日～4月14日 ○文化協会作品展示開催 参加7団体 	b	継続	展観事業の充実を図るため、本年度から新たな取組みとして、所蔵品展、収集資料品展を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ○所蔵品展開催期間中の入館者数3,107名 ○収集資料品展開催期間中の入館者数16,870名 ○企画展開催期間の入館者数6,295名 ○根来塗講座作品展示の入館者数8,237名 ○文化協会作品展示の入場者数延べ7,812名 できるだけ多くの市民の方に来館いただくため、関係機関等への働きかけのほか、市の広報紙やウェブサイトの活用等、啓発活動に努める。
3	〃	民俗資料館歴史学習・講座事業	講演会や歴史講座とあわせて、職員等による歴史学習会を実施し、市民に様々な角度から郷土の歴史や成り立ちについて学び触れ合う機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史講座 第1回:6月23日(日)「紀の川の古代寺院～白鳳寺院の最新情報～」 第2回:2月2日(日)「世界遺産と根来寺」 ○夏休み子ども歴史学習会「子どもふるさと歴史調査隊一戦国時代の岩出をさぐる～」 第1回:7月28日(日)第2回:8月10日(土) ○子ども歴史・自然学習会 実施日:9月8日(日) ○秋季企画展講演会 講演会実施日:11月10日(日) ミュージアムトーク実施日:11月17日(日) 	b	継続	本年度から新たな取組みとして、資料館職員による「夏休み子ども歴史学習会」を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ○歴史講座 第1回 参加者数:61名 第2回 参加者数:113名 ○夏休み子ども歴史学習会 第1回 参加者数:35名 第2回 参加者数:29名 ○子ども歴史・自然学習会 参加者数:17名 ○秋季企画展講演会 講演会 参加者:50名 ミュージアムトーク参加者:35名 子ども歴史・自然学習会は屋外実施で悪天候の影響もあり参加者が大変少なかった。今後も多くの方に参加いただけるような、市民全般を対象とした学習会として実施していく。
4	〃	国史跡根来寺境内保存管理事業	史跡指定を受けた根来寺境内の今後の適正な保存管理並びに行政的施策の基本方針を策定する。	文化庁から、期間延長の指導があり、県教育委員会や策定委員会委員長と協議の結果、根来寺周辺の景観調査や環境調査等の精査を行うため、1年延長して平成23～平成25年度までの3ヶ年事業として実施することになった。	b	完了	本年度は、策定委員との意見調整を行いながら、適宜策定委員会(3回実施)と小委員会(1回実施)をそれぞれ開催し、その結果を取りまとめ、保存管理計画書を策定した。 今後は、策定計画をもとに史跡の保存管理を適切に行うため、関係機関と連携を図っていくことが必要である。